

ゆう・ゆうで交流

7月25日、町子育てふれあい館内のつどいの広場ゆう・ゆうで認知症の家族を介護している人同士の交流を目的とした「認知症の方を介護する家族のつどい」が行われました。今回は初の試みとして、ゆう・ゆうに遊びに来ている子育て世代の家族と一緒に交流を行いました。ゆう・ゆうを運営している、子育て談話室の柴田恒美さんは「家族も高齢になると介護が難しくなってくる。若い世代は核家族が増えている。お互いが触れ合うことで刺激になり、元気をもらうことができると思うので、今後も交流していきたい」と話しました。



ゆう・ゆう内で脳トレを行う参加者



ふねまと一緒に電車の旅を楽しむ親子

ふねまと一緒に電車に乗ったよ

7月25日、ふねまと一緒にラッピング電車に乗り、熊本市交通局から熊本駅までを往復する夏休み特別イベント『ふねまと一緒に恐竜電車でGO!』が開催されました。イベントには親子19組が参加し、ふねまと一緒に約1時間の電車の旅を楽しみました。電車内で開催されたクイズ大会では、親子で仲良く答えを考える姿が見られ、大会で1位になった平川廉くんは「今日は、初めて恐竜電車に乗った。そして、ふねまと一緒に電車に乗られて楽しかった。また電車に乗りたい」と話しました。

手作りの陶器が完成

7月27日、公民館御船分館で御船校区婦人会（竹田津和子会長、80人）の会員10人が、手作り陶器の茶碗で抹茶を楽しみました。陶器作りは、4月の総会時に同校区内にある御船窯で行いました。会員たちは、自分が作った茶碗や皿などの陶器を見つけると、うれしそうに見つめていました。竹田津会長は「会員数が年々減ってきている。婦人会活動を楽しんでもらおうと陶器づくりを計画した。今後も会員の親睦を深めながら会員を増やしていきたい」と話しました。



自分の陶器を探す会員たち

みんなで楽しく食を学ぼう

町保健センターで、さわやか会主催の夏休み子どもクッキング教室が開かれ、小学生23人が参加しました。4回の教室では、食に関するミニ講座のあと、推進員の指導を受けながら調理実習が行われました。3年生から毎年教室に参加している、木倉小6年の河地ひなりさんと白梅未久さんは「最初は料理を覚えようと思って参加しました。みんなと仲良くなり、一緒に料理をするのはとても楽しいです」と話しました。



白玉団子のすまし汁、うまくなかったかな？

レジ袋の預り金を小学校へ

7月11日、株式会社黒潮市場から七滝中央小学校（木屋秀章校長、82人）へレジ袋の預り金が寄附されました。同小では毎月、アルミ缶を回収し、回収した益金で全校生徒に学期ごとに歯ブラシを購入する取り組みを行っています。木屋校長は「児童たちは、捨てればごみ。分ければ資源ということ、アルミ缶が歯ブラシに代わることを通して学習している。頂いた寄附は、エコステーションの改修など児童たちにわかるようなことに使用したい」と話しました。黒潮市場は、11年前からマイバッグ運動を推進し、レジ袋の代金を預り金として小学校へ寄附を行っています。



黒潮市場中村御船店長（左）と木屋校長（右）



役場玄関前で行われた出発式

社会を明るくする運動

7月23日、町保護司会（明月聖矢会長）が「第64回社会を明るくする運動」の啓発パレードを行いました。同運動は、犯罪や非行の防止、罪を犯した人の更生への理解、犯罪や非行のない明るい社会を築こうとする全国的な取り組みです。役場正面玄関前で明月会長より挨拶が行われたあと、保護司9人が車に乗り町内を巡回しました。7月8日には、上益城地区保護司会による御船警察署管内の啓発パレードも行われています。

みどりの里幼年消防クラブが結成

上益城消防署会議室で7月23日、こども園みどりの里幼年消防クラブ（北森光代園長、160人）の結成式が行われました。同クラブは、年長児32人で結成されています。式では参加した年長児全員で「防火の誓い」を大きな声で誓いました。式終了後、園児たちは普段見ることがない、消防車や救急車の中の見学や、子ども用の消防服を着て楽しんでいました。隊長の山下大夢くんは「はずかしいけど、練習をがんばって、大きな声で号令を出したい」と話しました。



子ども用の消防服を着て敬礼する園児たち



絵画を眺める来場者

石橋に思いを馳せて

7月15日から31日まで、御船街なかギャラリーで石橋油彩画展が開催されました。石で造った橋の魅力を実写に近い形で再現するため、調査・資料集めに4年、作画に7年の歳月をかけて入念に描かれた県内372基の石橋。今回の画展では緑川水系の石橋28点が展示され、町内外から約400人が画展に訪れました。作者の桑田一男さんは「来場者に感動してもらえて、画展を開いてよかった。御船街なかギャラリーの空間は雰囲気がよく、展示をするのにとってもよい場所。これからもみなさんに活用してもらいたい」と話しました。